

令和元年度 第2回徳島県南部地域政策総合会議における委員意見概要に対する回答

担当・分野	ご意見の概要	ご意見に対する県の考え方
政策 防災部 関係	<p>防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練等での女性参画が重要 ・避難所運営の女性リーダーの育成が必要 	<p>防災、特に避難所運営を考えていく上で、男女共同参画の視点は重要であると認識しております。県民局では、防災講座や防災ワークショップなど様々な機会を通じ、住民の方に対し、男性協力の下、積極的な女性参画の必要性について啓発を行っており、12月、牟岐町においては、「避難所運営ゲーム（HUG）」を婦人会の方々を中心に、多くの女性に実施いたしました。</p> <p>今後とも、管内市町と協力しながら、より多くの女性が防災・避難所運営の「主体的な担い手」となっていけるよう、取り組みを進めてまいります。</p>
	<p>防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民に理解してもらえようわかりやすい防災・災害の周知が必要 	<p>南海トラフ地震臨時情報のほか、昨年から警報などの防災気象情報の切迫度を5段階にわけた「警戒レベル」の運用がはじまっております。こうした新たな情報ははじめ、防災知識については、委員のご意見のとおり、正しく住民の皆さんに伝わり、住民自らの行動に結びつくことが大切だと考えております。</p> <p>そのため県民局においても、防災講座の実施など正しい防災知識の普及・啓発の場の確保に努めるとともに、防災イベントの開催など、少しでも多くの住民の方に防災に触れ、考えてもらえるよう取り組んでいるところです。</p> <p>これからも「住民目線」に立った防災・減災対策を、地域とともに取り組みを進めてまいります。</p>
	<p>危機</p> <ul style="list-style-type: none"> ・孤立集落カルテを作成しているようだが、進捗状況を教えてほしい 	<p>集落カルテを作成している孤立の定義は、中山間地域、沿岸地域、島嶼部などの地域や集落において、地震、風水害に伴う道路の損傷や津波による浸水等の要因で、外部からのアクセスが途絶し、人の移動・物資の流通が困難もしくは不可能となる状態としており、南部圏域内で83集落の農業・漁業集落が孤立の可能性があります。</p> <p>この集落カルテには、集落へのアクセス道路に隣接している土砂災害危険箇所、避難施設、生活用品の備蓄状況などを記載しています。</p>
保健 福祉部 関係	<p>長寿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の集いの場、通いの場づくりについて 	<p>寄り合い等の地域の特性を活かし、R2年度は悩みや人間関係を相談し合えるコミュニティづくりの基盤形成を目的に、地域活動の中心的な役割を担う住民の方に対して出前講座や普及啓発を行うことで、住民同士が抱える問題を分かち合い、必要な情報提供や支援につなげられる地域づくりを進めて参ります。</p>
	<p>次世代</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の結婚支援「マリッサとくしま」の取組みについて教えてほしい 	<p>「マリッサとくしま」では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検索システムを活用した「1対1のお見合い（マッチング）」や、 ・趣向を凝らした「出逢いイベント」の開催、 ・出逢いの場面からカップル成立後の交際までフォローする「阿波の縁むすびサポーター」の養成など、 <p>結婚を希望する一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな支援を行っています。</p> <p>南部圏域では毎月「阿南ひまわり会館」でマッチング会員出張登録・閲覧会を実施していますので、ご利用下さい。</p>
	<p>次世代</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独身の若手漁業者にイベント情報の提供について 	<p>「マリッサとくしま」では、HPから登録可能な無料メールマガジンの登録者にイベント、セミナーやプチコン（少人数で行うイベント）の開催情報を提供しています。</p> <p>登録者はイベント、セミナー等の情報を確認したり、応募することができますので、是非、登録下さい。</p>
地域 創生部 関係	<p>DMV</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DMVの今後のスケジュールについて ・DMVの2020年度の運行へのスケジュールを教えてください。 	<p>DMVについては車両3台が完成したほか、甲浦駅の坂路工事がこの春完成予定となっています。また、バスモードの運行ルート（案）が示され、安全性を検証する「DMV技術評価検討会」が開催されるなど、令和2年度運行開始に向け事業を推進しています。</p> <p>令和2年度については、遮断機や警報装置などの安全対策、性能試験や習熟訓練を実施することで安全運行体制を確立することとしています。</p> <p>一方、DMVについては車両自体が観光資源となり、本格営業運行開始を機に県南への観光誘客が期待されることから、「四国の右下観光局」を核としDMVを活用した周遊プランやお土産の開発を進めるとともに、旅行会社が集う商談会においてプロモーションを行っています。</p> <p>今後とも、商談会でのプロモーションや旅行会社への営業活動を強化するとともに、DMVを活用した観光コンテンツの開発を進めることで、県南への観光誘客に取り組みます。</p>

担当・分野		ご意見の概要	ご意見に対する県の考え方
地域創生部関係	人口減少	・人口転出を止める手立てを要望	県南部在住・出身の若者を「将来の定住候補」としてとらえ、Uターン人材を育てる事業をR2年度に実施を予定しています。 県南部で暮らす大人へのインタビューを通じて地域で暮らすロールモデルを若者に提示し、進路検討の際、「県南部で暮らす」ことを選択肢の1つとしてもらいたいと考えています。
	移住	・移住に関して南部各市町の連携強化について	市町の移住担当者や移住支援団体が参加する研修会を実施することにより、管内関係者の連携強化につながっていると考えています。今後、農業・商工関係者との連携も進め、移住希望者を取りこぼすことがないよう、支援に取り組めます。
	交流人口	・交流人口増加の施策について	「四国の右下」若者創生協議会では、県内外大学生が県南部で地域課題解決フィールドワークを行う事業を実施しており、地域住民の連携促進のきっかけづくりに、こうした事業もご活用いただきたいと思います。一般社団法人四国の右下観光局と連携しながら、地域色豊かな祭りや伝統食に触れる体験プログラムの開発や地域の暮らしを体感する農林漁家体験の拡充などに取り組むことで、体験型観光を推進してまいります。
	観光	・「一般社団法人四国の右下観光局」における持続可能な観光地域づくりに向けた取組みについて	一般社団法人四国の右下観光局は、観光事業者をはじめ多様な関係者と連携しながら、観光の専門知識をもった専門人材に、県、市町からの派遣職員5名を加え、6名体制で持続可能な観光地域づくりに取り組んでいます。また、香港や台湾、豪州をメインターゲットとした海外プロモーションの強化、観光素材の磨き上げや掘り起こしによる魅力的な体験プログラムの開発、Wi-Fi環境や多言語表記など外国人旅行者の受入態勢の整備、デジタルマーケティングによる情報戦略の強化等、多様な取組みを推進し、県南への観光誘客に取り組んでまいります。
県土整備部関係	県土	・畑田川の河川整備について	河川改修は、上下流・本支川・左右岸バランスを考慮して進める必要があります。まずは現在進めている本川・岡川の河川改修を引き続き推進してまいります。 畑田川につきましては、平成30年度に堆積土砂掘削、令和元年度に護岸修繕を実施しております。 今後もバトロールを定期的に行うなど、河川の状況の把握に努め、適切に維持管理してまいります。
	県土	・道路区画線の修繕について	県が管理する区画線につきましては、早急な対応が必要と思われるところから計画的に順次、修繕してまいります。
	県土	・阿南ICから国道55号へのアクセス道路（東西道路）の整備について	「東西道路」を構成する道路の内、県道阿南勝浦線では「阿南IC」東側の拡幅工事を平成31年3月に完成させました。 また、県道富岡港南島線では、辰巴ランプから東側約700m区間で擁壁工事を実施しているところであり、JRアンダーパス西側約600m区間では那賀川堤防を活用して整備できるよう、河川管理者をはじめとする関係機関と協議を行いながら設計を進めており、早期完成に向け事業推進を図ってまいります。
	県土	・県道阿南小松島線の道路整備について	主要地方道阿南小松島線については、平成27年12月に黒河工区のバイパス整備が完了し、現在は「持井工区」と「東だいご工区」の改良工事に着手しているところです。 引き続き安全安心な通行の確保のため両工区の早期供用開始に努めてまいります。
	県土	・道路の維持管理（支障樹木）について	通行の支障となる樹木の伐採につきましては、基本的に所有者の責務ですが、所有者による伐採が困難な場合は、関係機関と協議を行い、適切な対応を図ってまいります。
	県土	・冬期通行規制区間（国道193号）の解除について	規制解除につきましては、気象状況を勘案しながら、出来るだけ早期に解除できるよう判断して参ります。

担当・分野	ご意見の概要	ご意見に対する県の考え方
県土整備部関係 都市計画	・都市計画区域線引き（阿南市）の見直し等について	<p>区域区分（いわゆる線引き）を定めるにあたっての方針としては、緑地等自然環境の整備、又は保全に配慮する視点から優良な農地等との健全な調和を図ることとしております。</p> <p>区域区分の見直しの方針としては、市街化区域編入にあたっては、土地区画整理事業の実施など計画的な開発の見直しがあることを必要としております。</p> <p>また、道路整備等、その後の周辺の状況の変動等により、区域区分の境界が不合理となる箇所については、地形・地物による適切かつ合理的な見直しを検討することとしております。</p> <p>さらには、市町が策定する地域別のあるべき市街地像等を示した都市計画マスタープランや立地適正化計画との整合が図られる必要があります。</p> <p>住宅・店舗等の建築等については、現行の開発許可制度や地区計画制度の活用により可能と考えております。</p> <p>これら見直しの方針等に基づき、今後、阿南市や農政部局とも連携し、区域区分の見直しに関する検討を行うこととなります。</p>
農林水産部関係 林業	・人材育成のビッグデータ化について	<p>長年にわたり、林業の様々な分野で活動し、豊富な経験と高い技術を有する「匠の技」を後世に伝承すべく、画像コンテンツとして蓄積し動画配信サイトに公開します。また、同時に現役の匠による現地指導もお願いしながら、林業アカデミー研修生等の新規林業参入予定者の技術習得や、現場で活躍している林業技術者のスキルアップのみならず、一般県民に至るまで広く利用できる学習環境を整えて参ります。</p>
林業	・林業の継続には、木材価格の上昇が必要	<p>スズ中目材の価格は、昭和54年ごろをピークに減少を続け、現在では1万4千円前後（㎡当たり）で推移しています。また、大径材については、建築様式の変化から需要が減少し、その価格は中目材と同程度で取引される状況となっており、今後とも、その傾向は続くものと思われます。</p> <p>しかしながら、「木材の良さ」や「木の温もり」「木の暖かさ」などの付加価値を高め、木材を多くの人に利用してもらう活動を通して、木材価格が上昇するよう、今後とも取り組んで参ります。</p>
林業	・森林組合及び事業所への補助金の状況について	<p>徳島県では、「意欲と能力のある林業経営体」を「クール林業経営体」と名付け、登録を行っております。「クール林業経営体」には、森林組合や林業会社のほか、個人経営者も登録することができ、経営計画の策定や補助金制度を活用した間伐等の森林整備など、地域の模範となるような活動を期待しているところです。今年度、市町が実施した経営管理意向調査や新たな森林管理制度に関する説明会が、所有者の「森林への関心」を引き出し、森林整備への意識が高まったものと考えており、今後とも関係者と協力した取り組みを進めて参ります。</p>
漁業	・漁業の支援について（6次化の推進）	<p>漁業生産量・生産額の減少、漁業就業者の減少・高齢化など、南部地域の水産業を取り巻く環境は、厳しい状況が続いているため、「担い手対策」として、県内高校生を対象とした体験漁業の実施、「育てる漁業」として、資源増大を目的としたアワビ類の種苗放流、アワビの餌となる海藻を増やすための藻場造成などに取り組んでいます。</p> <p>また、水産資源が回復するまでの漁業収入確保策として、水産物の付加価値向上を目的とした販売方法の検討と水産物を加工した付加価値のある新商品の開発のため、漁獲した魚を高く売するための水産物のブランド化・認知度向上に加えまして、6次産業化を推進しているところです。</p> <p>具体的には、由岐沖で養殖されたワカメの加工品開発・試験販売、伊島で漁獲された水産物を用いた加工品開発、鞆浦漁協での地元食材、低・未利用素材を用いた新商品の開発など、地域の特色ある6次産業化の取組を支援しているところです。</p> <p>今後とも、地元協議を重ねながら、地域の特色を生かした水産加工品の開発や販売に向けた取組を支援することで、水産物の6次産業化を推進して参ります。</p>